

〔駿府政事錄〕慶長十八年正月二日、秀頼公御名代速水甲斐守來、大澤少將披露之、

〔親元日記〕寛正六年正月六日甲寅、奏者親元當番、御番御喝食兩人御入、改年御禮也、十一日己未、

春日社御師、樽一荷、粽五連圓鏡一、廿日戊辰、攝州神元寺、御卷數進上、并貴殿勢氏江卷數樽一荷、

兩種、廿二日庚午、八幡善法寺太刀金、彦根寺御卷數二合進上、貴殿江一合、廿四日壬申、春日御

師刑部少輔師淳參賀、御樽一荷、百二合、鯉一、

〔加澤平次左衛門覺書〕海野兄弟御退治、矢澤頼綱無心事

長門守岩櫃ノ城ニ居テ、越後南方ノ大敵ヲ防ギ、堅固ニ城ヲ持ケレバ、勝頼卿不斜思シケル堺目

ノ城代ナリケレバ、年始ノ御禮ニ參府ハナカリケリ、使者ヲ以テツトメラレケル、年頭ノ使者ヲ

差上タル節御書アリ、其文曰、改年ノ爲祝儀、矢根到來、喜悅候、猶土屋右衛門尉可申候、恐々謹言、

正月十七日 勝頼御朱印 海野長門守殿

〔家忠日記〕天正二十年元○文祿十一月七日癸亥、筑紫殿様ニ年頭ノ御禮として、酒井助大夫つかは

し候、進上物御小袖一重、加賀爪殿へ銀子一枚、深尾清十へ同三兩、松平源三郎へ同二兩、全阿彌へ

二兩、三橋左吉一兩、鶉殿善六へ壹兩、

〔孕石家秘録〕寛文三年正月元日、忠豐公○山ハ江戸御在、豐昌ハ御眼氣ニ付、御出座不被成然共、御

家中御侍共ハ御屋敷江出仕、御嘉例之御規式ニ而、組切熨斗頂戴仕事、

一 桐間伊束後兵庫組高屋所左衛門御母相煩不罷出候處、御禮帳ニ書載、其上御近習ハ年頭御禮

ニ罷出事不定ニ付、例年も帳面に不記候處、大塚伊左衛門御頭罷出候故、殿中禮帳附之者ニ其

段理り候得と、伊束申聞事、

一 伊束組生駒隼人組之御物頭替ニ罷出、大形相濟候時分、平御侍御禮之次第、少滯申様ニ有之ニ

付、伊束儀椽側へ罷出、兩組帳之引合、今年之帳付可爲不案内候間、如例罷出られ候得と、組之侍